

令和7年度 学校評価報告書

（目標設定）

実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価（月日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教 育 課 程 学 習 指 導	○基礎的・基本的な知識・技能の獲得を基本に、その活用による対話的・協働的な学習活動を通して、主体的に学習に取り組む態度を備えた生徒を育成する	①学習形態に応じた対話的・協働的な学習を通して「わかる・できるが実感できる授業」を実践し、生徒の主体的な取組を定着させる。 ②組織的な授業改善の一環として、シチズンシップ教育を含むテーマを設定し、推進するとともに、公開研究授業・研究協議を実施する。	①研究授業及び相互に授業見学することにより、授業や生徒の課題を広く把握する。 ①協議を通して、教科間の内容のつながりを他教科と共有し、教科横断的な授業改善につなげていく。 ①対話的・協働的な学びの充実により、組織的な授業改善に取り組む。 ②共通の目標のもとに全教科型シチズンシップ教育を実践する。	①授業実践において目標設定と振り返りができたか。 ①授業の互見や研究授業を年2回以上実施し、教科会で研究を深めたか。 ②シチズンシップ教育において、授業評価の肯定的回答の割合を90%以上達成したか。 ②共通の目標で組織的な研究を進められるよう校内研修会を設定したか。		+6			
2	(幼 ・ 児 児 童 ・) 生 徒 指 導 ・ 支 援	①社会規範意識を備え、社会から期待され信頼され応援される生徒を育成する ②部活動や学校行事、地域連携活動を通して、自己肯定感を高められる主体的な活動の場を整備し、生徒を支援する	①状況に応じたマナー・ルールの必要性を理解し、他を思いやる優しさを養い、社会に貢献できる生徒を育成する。 ①各種アンケート、サポートドックの活用や「チーム田名」を意識した支援教育により、周囲と適切なコミュニケーションをとれる寛容な心と社会性を育成する。 ②学校行事や部活動等での主体的な活動を積極的に評価し、自己肯定感を向上させる取組を継承していく。 ②部活動加入者や地域連携活動参加者の増加と、活動報告会を充実させる。	①高校生としての適切な言葉遣いや挨拶、制服の着こなしを徹底し、地域から信頼されるような社会性・社交性を身に付けさせる。 ①SC・SSW、担任等が密に連携し、生徒への声掛けや面談、各種アンケート、サポートドックの活用を通して安心・安全な学校をつくる。 ②生徒の主体的な創意工夫を促し、学校行事を通じて自尊感情や生徒相互の一体感を育む。 ②部活動が有意義であることを理解させ、部活動加入率60%以上の維持と運動部女子加入率30%を目標とする。 ②地域貢献活動の年間の予定を計画的に生徒に示し、多くの部活動・委員会・有志が、より参加しやすく協働できる環境をつくる。	①TP0に合った言葉遣いや態度、制服の正しい着こなしの徹底と、巡回も取り入れながら授業に集中させることができたか。 ①SC・SSW、担任等との情報共有を密にし、日常の声掛けや面談を通して、生徒の小さな変化に気づき、早期対応できたか。 ②生徒会行事を見直し、行事に積極的に取り組んだか。また、委員会活動に主体的に取り組んだか。 ②部活動加入率60%を達成できたか。部活動の生徒が学校行事等へ主体的に協力できたか。 ②地域活動に参加した生徒の延べ人数が増加したか。					

	視 点	4 年間の目標 (令和6年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価（月日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
				②情報発信を工夫し、多くの生徒が生徒表彰制度を活用できるように取組を推進する。	②生徒表彰制度の取組が促進されたか。					
3	進 路 指 導 ・ 支 援	○社会的・職業的自立を目指し、長期的展望の獲得やキャリア諸能力の形成による人材の育成に取り組む	①生徒一人ひとりの進路実現をサポートし、総合的な探究の時間と連携してキャリアに関する有益な知識や情報を提供する。 ②キャリア形成に通ずる外部機関や資源等を有効活用し、職員・生徒に対して効果的な研修及びガイダンスを実施する。	①総合的な探究の時間でキャリア形成を学年ごとに計画的に行う。 ②外部機関等と連携し、多様化する受験制度や専門学校に関する研修を行い、職員の理解を深める。 ②生徒の思考の幅が広がるガイダンスや講座を適切な時期に開催し、職業観の深化を図る。	①ガイダンスや総合的な探究の時間を計画通り実施し、有意な知識や情報を提供できたか。 ②進路指導につながる職員研修を実施し、職員の能力が向上したか。 ②生徒にとって外部機関や資源の活用が効果的であったか。					
4	地 域 と 協 働	○豊かな人間性、社会性を育み、生徒が有用感、自尊感情を実感でき、地域に信頼される学校づくりに取り組む。	①地域連携活動事業を充実させるために、生徒に積極的な働きかけを行い、その成果を発信する。 ②学校運営協議会の充実を図る。	①生徒の地域におけるボランティア活動やPTA主催のキウイ収穫祭への参加を促進する。 ①地域の社会福祉施設や公民館、近隣小中学校との交流事業を行う。 ①学校ホームページを充実させることで、学校の魅力を発信する。 ②各グループの活動内容を踏まえ、学校運営協議会において、教育活動の成果と課題を整理し、学校運営の改善につなげる。	①ボランティア活動等への参加者が増加したか。 ①社会福祉施設や公民館、近隣小中学校との交流事業成果を発信できたか。 ①各グループや部活動と連携して、学校ホームページを随時更新する体制を整えることができたか。 ②学校運営協議会における評価が向上したか。					
5	学 校 管 理 学 校 運 営	①安全、安心な学校生活の中で、自己と他者を守る行動のできる力を育成する。 ②事故・不祥事ゼロ実現に向け、教職員が一丸となって、風通しの良い職場環境を醸成する。 ③働きかた改革を推進するため教員の意識改革を図る。	①大規模災害や交通事故の際に、自他の生命を尊重し、適切に行動することができるよう指導する。 ②職員研修や事故防止会議を計画的に開催し、情報共有とともに職員の事故・不祥事防止に対する意識を高める。 ③ICT(Teams)等の活用を促進し、業務の効率化・組織化を図る。	①大規模災害に備え、生徒・職員対象のDIG研修や防災避難訓練、シェイクアウトを実施し、災害対応力を向上させる。 ②職員研修や職員の意識やスキルを高める事故防止会議を計画的に実施し、情報共有とともに、事故・不祥事ゼロに向けて働きかける。 ③ICT を効果的に活用し、職員の働き方改革を推進するとともに、メンタル・健康管理を軸に安全・安心な職場環境をつくる。	①生徒・職員対象のDIG研修やシェイクアウト、防災避難訓練、帰宅班の確認を年1回以上実施できたか。 ②事故・不祥事防止会議を計画的に実施し、事故・不祥事ゼロを達成できたか。 ③業務のオンライン化やICTの活用により業務の効率化を推進できたか。					